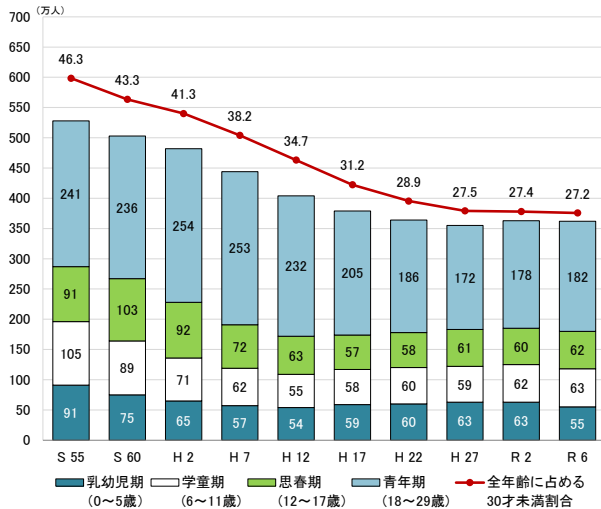


# 東京都の青少年の現状

## 第1 東京都の青少年人口

### 1 青少年人口の推移



資料：東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口（各年1月）」より作成

### 2 年齢別青少年人口

| 東京都の青少年人口 (6.1.1) |            |      |           |           |  |
|-------------------|------------|------|-----------|-----------|--|
| 年齢区分              | 人 数        | 比 率  | 男         | 女         |  |
| 歳                 | 人          | %    | 人         | 人         |  |
| 0                 | 83,287     |      | 42,556    | 40,731    |  |
| 1                 | 87,688     |      | 44,912    | 42,776    |  |
| 2                 | 89,771     |      | 45,993    | 43,778    |  |
| 3                 | 92,574     |      | 47,502    | 45,072    |  |
| 4                 | 94,667     |      | 48,166    | 46,501    |  |
| 5                 | 100,157    |      | 51,446    | 48,711    |  |
| 0~5               | 548,144    | 4.1  | 280,575   | 267,569   |  |
| 6                 | 101,887    |      | 51,892    | 49,995    |  |
| 7                 | 104,402    |      | 53,294    | 51,108    |  |
| 8                 | 106,383    |      | 54,346    | 52,037    |  |
| 9                 | 104,663    |      | 53,382    | 51,281    |  |
| 10                | 105,363    |      | 53,805    | 51,558    |  |
| 11                | 103,198    |      | 52,815    | 50,383    |  |
| 6~11              | 625,896    | 4.7  | 319,534   | 306,362   |  |
| 12                | 102,932    |      | 52,937    | 49,995    |  |
| 13                | 104,979    |      | 53,896    | 51,083    |  |
| 14                | 104,030    |      | 53,370    | 50,660    |  |
| 15                | 104,090    |      | 53,159    | 50,931    |  |
| 16                | 103,185    |      | 52,975    | 50,210    |  |
| 17                | 101,619    |      | 51,797    | 49,822    |  |
| 12~17             | 620,835    | 4.7  | 318,134   | 302,701   |  |
| 18                | 99,904     |      | 50,916    | 48,988    |  |
| 19                | 112,699    |      | 56,879    | 55,820    |  |
| 20                | 116,858    |      | 59,141    | 57,717    |  |
| 21                | 126,990    |      | 63,727    | 63,263    |  |
| 22                | 135,690    |      | 67,232    | 68,458    |  |
| 23                | 159,727    |      | 78,799    | 80,928    |  |
| 24                | 166,693    |      | 82,819    | 83,874    |  |
| 25                | 178,290    |      | 88,798    | 89,492    |  |
| 26                | 181,466    |      | 90,372    | 91,094    |  |
| 27                | 182,543    |      | 91,193    | 91,350    |  |
| 28                | 177,600    |      | 88,724    | 88,876    |  |
| 29                | 183,160    |      | 92,252    | 90,908    |  |
| 0~17              | 1,794,875  | 13.5 | 918,243   | 876,632   |  |
| 18~29             | 1,821,620  | 13.7 | 910,852   | 910,768   |  |
| 30歳以上             | 9,647,991  | 72.7 | 4,678,579 | 4,969,412 |  |
| 総 数               | 13,264,486 |      | 6,507,674 | 6,756,812 |  |

資料：東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口（令和6年1月）」

## 第2 令和5年少年非行等概況

### 1 刑法犯少年の年次検挙・補導状況

| 年次  | 刑法犯少年<br>(犯罪+触法) | 犯罪少年  | 触法少年  |
|-----|------------------|-------|-------|
| 令和元 | 3,598            | 2,548 | 1,050 |
| 令和2 | 3,154            | 2,265 | 889   |
| 令和3 | 2,925            | 1,876 | 1,049 |
| 令和4 | 3,042            | 1,919 | 1,123 |
| 令和5 | 3,347            | 2,178 | 1,169 |

### 2 少年非行の特徴的傾向

- 非行少年は増加した一方、不良行為少年は減少に転じた。
  - 非行少年は6.8%増加、不良行為少年は1.4%減少した。
  - 全刑法犯に占める少年の割合は、14.5%で前年比0.7ポイント増加した。
- 女子非行の割合は、非行少年、不良行為少年ともに増加した。
  - 非行少年に占める女子の割合は、18.3%で約5人に1人である。
  - 不良行為少年に占める女子の割合は、34.7%で約3人に1人である。
- 街頭犯罪全体の約4割は少年

都民の体感治安を悪化させている路上強盗等の街頭犯罪全体の総検挙、補導人員（成人・触法少年を含む）に占める少年の割合は36.5%で約3人に1人であり、依然として高い割合を占めている（前年比では1.9ポイントの増加）。

街頭犯罪の主な罪種（手口）別での少年の占める割合は、路上強盗は約3割、部品ねらいは約5割、オートバイ盗が約9割となっている。

※主な街頭犯罪とは、路上強盗、自動車盗、オートバイ盗、自転車盗、車上ねらい、ひったくり、自動販売機ねらい及び部品ねらいをいう。

### 3 非行少年等の検挙・補導状況

| 区分<br>年次 | 合 計            | 非 行 少 年            |                |                       |             |              | 不良行為<br>少 年        |
|----------|----------------|--------------------|----------------|-----------------------|-------------|--------------|--------------------|
|          |                | 刑法犯少年<br>(交通業過を除く) |                | 特別法犯少年<br>(交通法令違反を除く) |             | ぐ 犯<br>少 年   |                    |
|          |                | 犯 罪                | 触 法            | 犯 罪                   | 触 法         |              |                    |
| 令和<br>元  | 4,748<br>(904) | 2,548<br>(396)     | 1,050<br>(235) | 496<br>(53)           | 110<br>(10) | 544<br>(210) | 34,654<br>(11,742) |
| 令和<br>2  | 4,202<br>(827) | 2,265<br>(389)     | 889<br>(209)   | 465<br>(52)           | 132<br>(13) | 451<br>(164) | 29,634<br>(8,228)  |
| 令和<br>3  | 4,066<br>(844) | 1,876<br>(358)     | 1,049<br>(238) | 584<br>(80)           | 136<br>(9)  | 421<br>(159) | 26,121<br>(8,132)  |
| 令和<br>4  | 4,038<br>(782) | 1,919<br>(301)     | 1,123<br>(249) | 499<br>(51)           | 176<br>(22) | 321<br>(159) | 32,963<br>(10,946) |
| 令和<br>5  | 4,312<br>(776) | 2,178<br>(379)     | 1,169<br>(235) | 631<br>(64)           | 165<br>(14) | 169<br>(84)  | 32,492<br>(11,281) |

※ ( ) は女子を内数で示す。

※各用語の定義については、19, 20 ページ参照。

#### (1) 刑法犯少年の罪種別状況

|       | 令和5年中(人) | 前年比(人) |
|-------|----------|--------|
| 凶 悪 犯 | 79       | −7     |
| 粗 暴 犯 | 521      | −18    |
| 窃 盗 犯 | 1,797    | +260   |
| 知 能 犯 | 158      | −34    |
| 風 俗 犯 | 83       | +4     |
| そ の 他 | 709      | +100   |

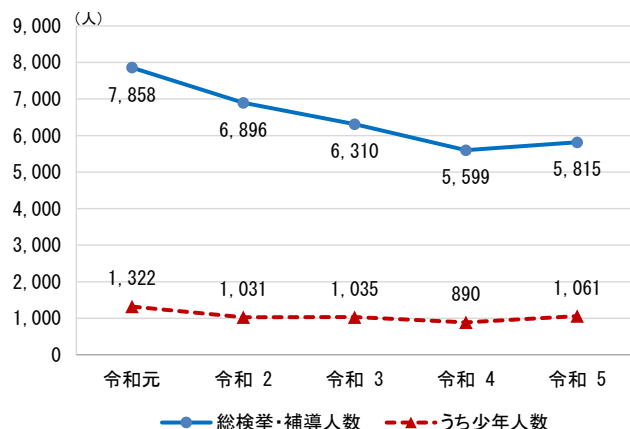
#### (2) 特別法犯少年の検挙・補導状況

特別法犯少年は 796 人で、前年比では 121 人 (17.9%) 増加した。

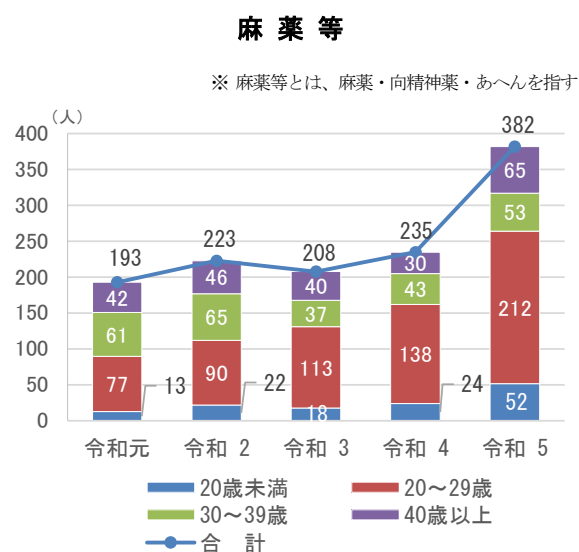
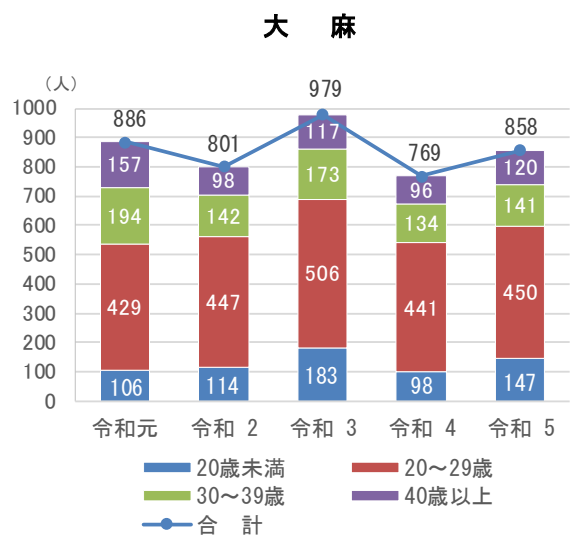
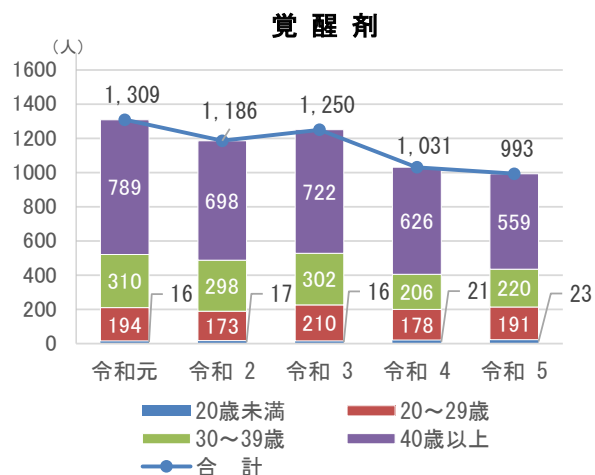
#### ・うち薬物

|        | 令和5年中(人) | 前年比(人) |
|--------|----------|--------|
| 麻 薬    | 52       | +28    |
| 大 麻    | 144      | +48    |
| 覚醒剤    | 21       | ±0     |
| 毒劇物    | 1        | +1     |
| 危険ドラッグ | 5        | +4     |

### 4 万引きの総検挙・補導人数



### 5 覚醒剤・大麻・麻薬等検挙人数の年齢別構成割合

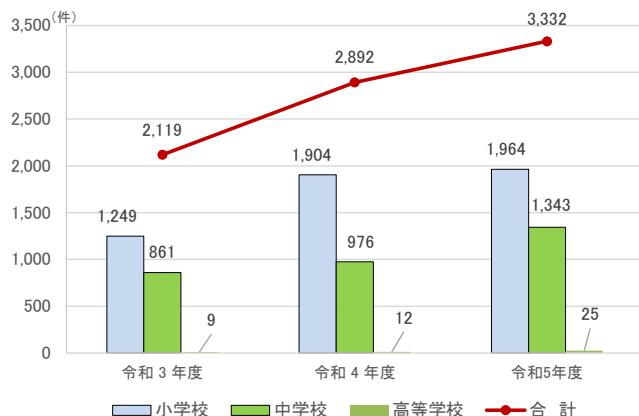


資料：警視庁「警視庁の統計」より作成

### 第3 児童・生徒の問題行動・不登校等の実態

#### 1 都内公立小・中・高等学校における暴力行為の状況

暴力行為発生件数推移(3年間)

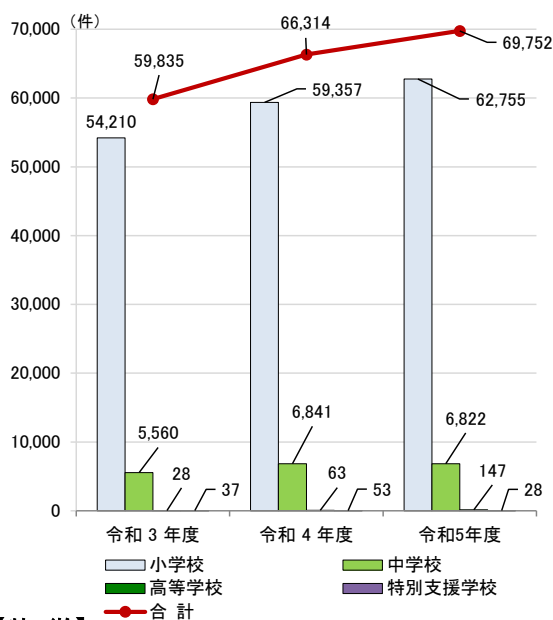


##### 【特徴】

- 暴力行為の加害児童・生徒数を学年別にみると、小学校では4年生、中学校では1年生、高等学校では2年生が最も多い。
- 令和5年度における暴力行為の発生件数は、令和4年度と比較すると増加し、令和2年度から増加している。

#### 2 都内公立学校におけるいじめの状況

いじめ認知件数の推移(3年間)



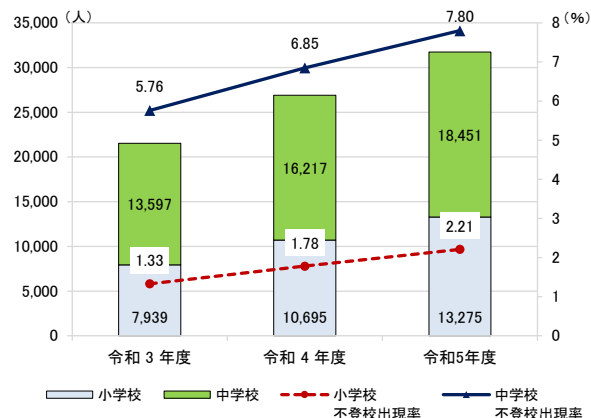
##### 【特徴】

- 令和5年度におけるいじめの認知件数は、令和4年度と比較すると、全ての校種において増加した。令和2年度から、すべての校種において増加している。
- いじめ発見のきっかけは、小・中・特別支援学校では「学校の教職員等」、高等学校では「本人からの訴え」が、最も多い。

- いじめの態様では、全校種で「冷やかしかからかい等」の言葉によるものが最も多い。

#### 3 都内公立小・中学校における不登校の状況

都内公立小・中学校における不登校者数・出現率の推移



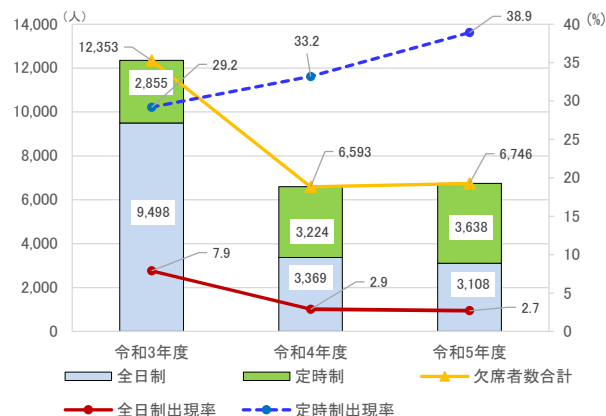
##### 【特徴】

- 不登校者数及び出現率は、小・中学校ともに、平成25年度以降、増加を続けている。
- 学校復帰率は、小学校 34.9%、中学校 27.9%であり、昨年度と比較して、小学校・中学校ともに増加している。
- 「不登校児童生徒について把握した事実」について、小・中学校ともに「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった。」が最も多く、次いで「不安・抑うつ等の相談があった。」、「生活リズムの不調に関する相談があった。」が多い。

資料：教育庁「『令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等 生徒指導上の諸課題に関する調査』について」より

#### 4 都立高等学校における長期欠席者・中途退学者数等の状況

長期欠席者数・出現率の推移

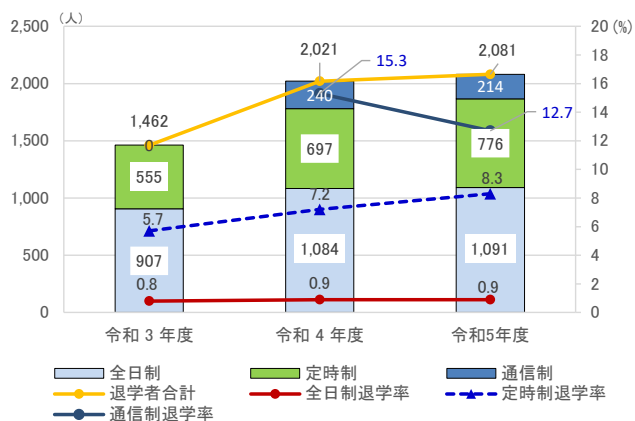


##### 【特徴】

- 長期欠席者数は、前年度と比較すると全日制・定時制ともに増加している。

- 長期欠席者数の出現率は、全日制・定時制ともに増加している。
- 長期欠席者の理由別内訳は、全日制・定時制とも「不登校」が最も多い。続いて全日制・定時制とも「病気」「その他」「経済的理由」の順となっている。「その他」には、「病気」「経済的理由」「不登校」のいずれにも該当しない理由により長期欠席した者としている。

中途退学者数・退学者の推移



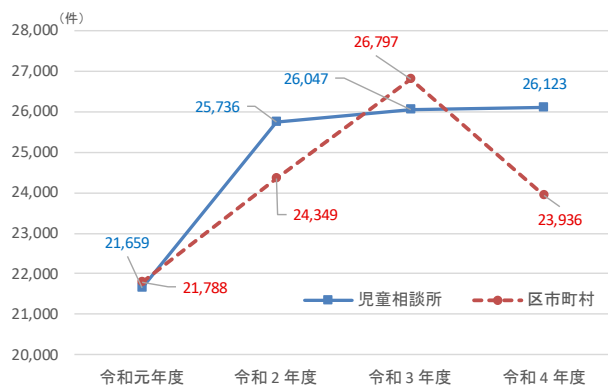
### 【特徴】

- 中途退学者は、全日制・定時制とも1学年が最も多く、学年が進行するにつれて減少している。
- 中途退学の原因は、全日制・定時制とも「学校生活・学業不適応」が最も多く、続いて「進路変更」となっている。通信制は、「進路変更」が最も多く、続いて「学校生活・学業不適応」「学業不振」の順となっている。

資料：教育庁「令和5年度における児童・生徒の問題行動・不登校等の実態について」より

## 第4 児童虐待の実態

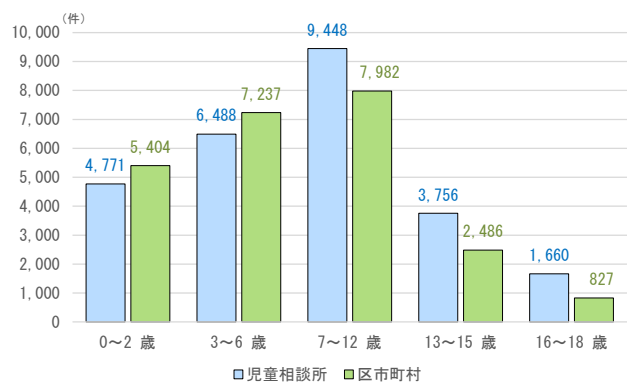
虐待対応総数



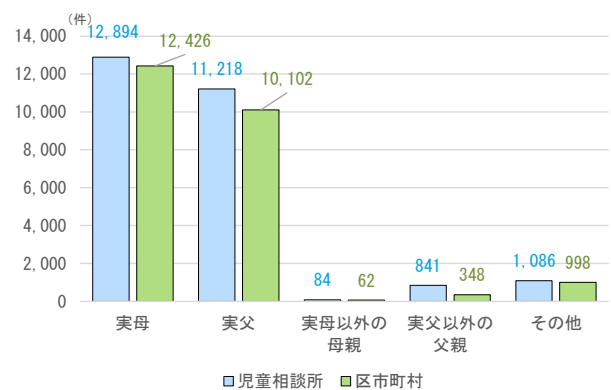
※令和4年度から、虐待非該当を含まない等、集計条件を変更。

### 【令和4年度】

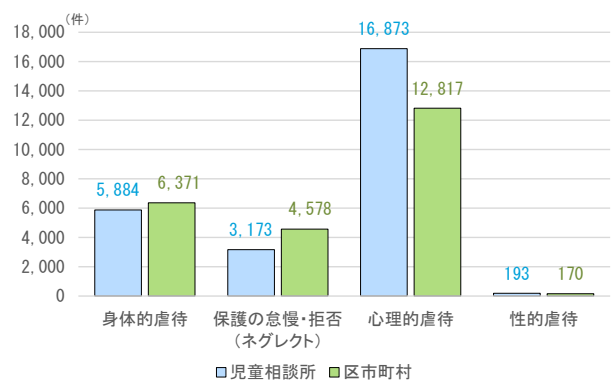
被虐待児童年齢



主たる虐待者

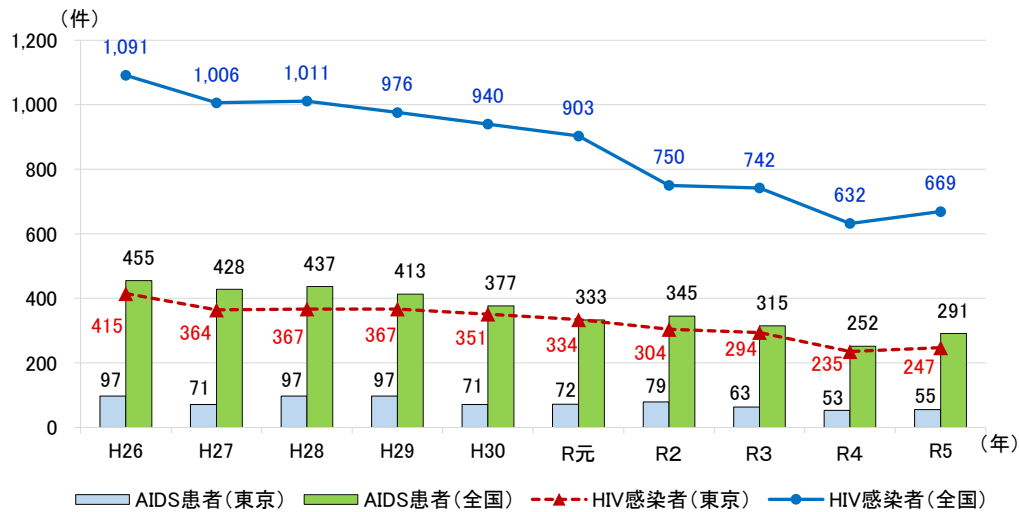


虐待内容別



資料：福祉局

## 1 東京都のHIV感染者・AIDS患者報告数の推移



(令和5年全国値) 厚生労働省「令和5年エイズ発生動向年報」より作成

## 2 HIV感染者及びAIDS患者の年齢別割合

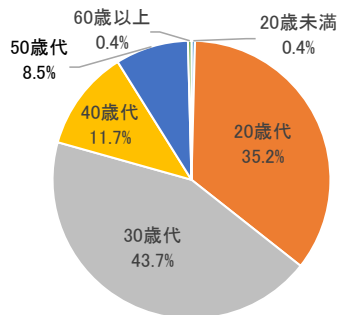
令和5年のHIV感染者及びAIDS患者を合わせた新規届出報告数は302件である。そのうち、HIV感染者は247件、AIDS患者は55件であった。

HIV感染者報告数は20～30歳代に多く、AIDS患者報告数は30～40歳代が多い。

都内の検査件数は、23,693件で、前年と比べて6,582件増加した。

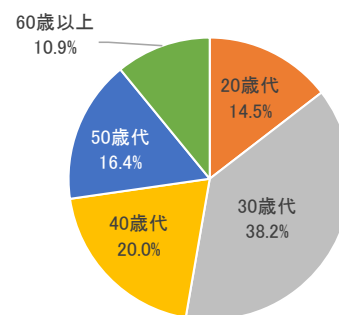
HIV・AIDSの早期発見・早期治療に結び付くよう、検査件数を増やす取組を続けた上で、今後の動向に注意する必要がある。

## (1) HIV感染者



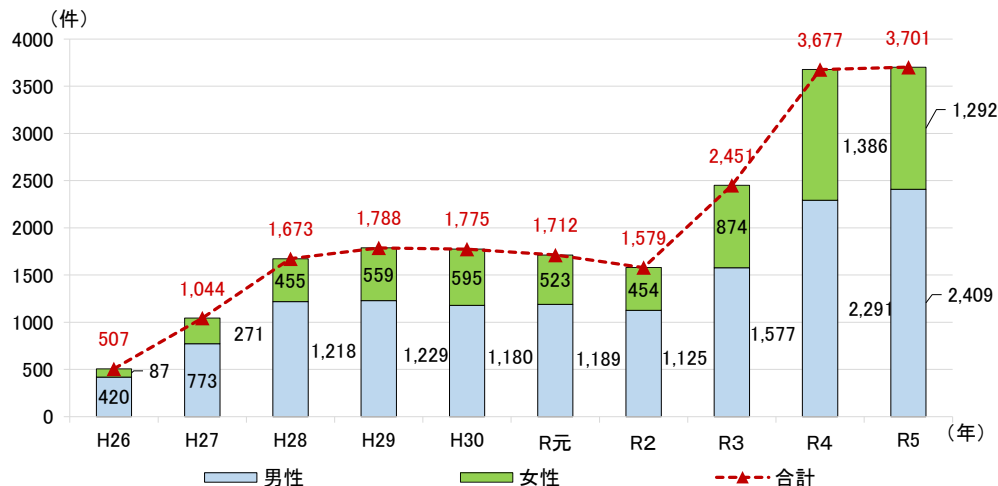
|       | HIV(件) |
|-------|--------|
| 20歳未満 | 1      |
| 20歳代  | 87     |
| 30歳代  | 108    |
| 40歳代  | 29     |
| 50歳代  | 21     |
| 60歳以上 | 1      |
| 合 計   | 247    |

## (2) AIDS患者



|       | AIDS(件) |
|-------|---------|
| 20歳未満 | 0       |
| 20歳代  | 8       |
| 30歳代  | 21      |
| 40歳代  | 11      |
| 50歳代  | 9       |
| 60歳以上 | 6       |
| 合 計   | 55      |

## 3 東京都の梅毒患者報告数の推移



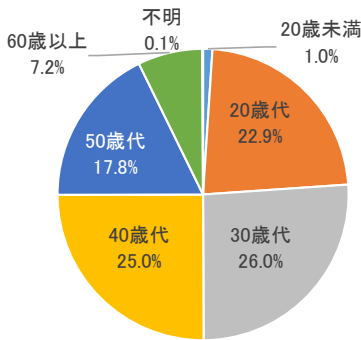
4 梅毒患者の年齢・性別の割合

令和5年、都内の患者報告数は、3,701件で前年より24件増加し、平成23年の調査開始以降最多となり、依然として多い状況が続いている。

男性の異性間性的接触、同性間性的接触による患者報告数は、いずれも平成26年以降の10年間で最も多かった。男女ともに若い人や働く世代での感染が増加しており、男性は20～50歳代に多く、女性は特に20歳代の報告が多い。

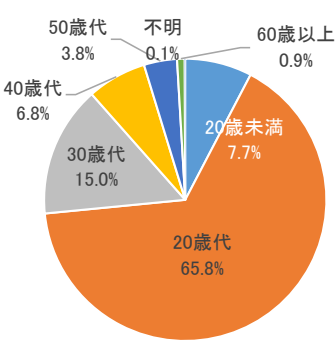
梅毒は、早期に治療をすれば治すことができることから、検査で早期発見することが重要である。梅毒検査はHIV検査と同様に、保健所、検査・相談室で匿名・無料で受けることができる。

(1) 年齢別・男性



| 年齢    | 男性    |
|-------|-------|
| 20歳未満 | 25    |
| 20歳代  | 551   |
| 30歳代  | 627   |
| 40歳代  | 603   |
| 50歳代  | 428   |
| 60歳以上 | 173   |
| 不明    | 2     |
| 合 計   | 2,409 |

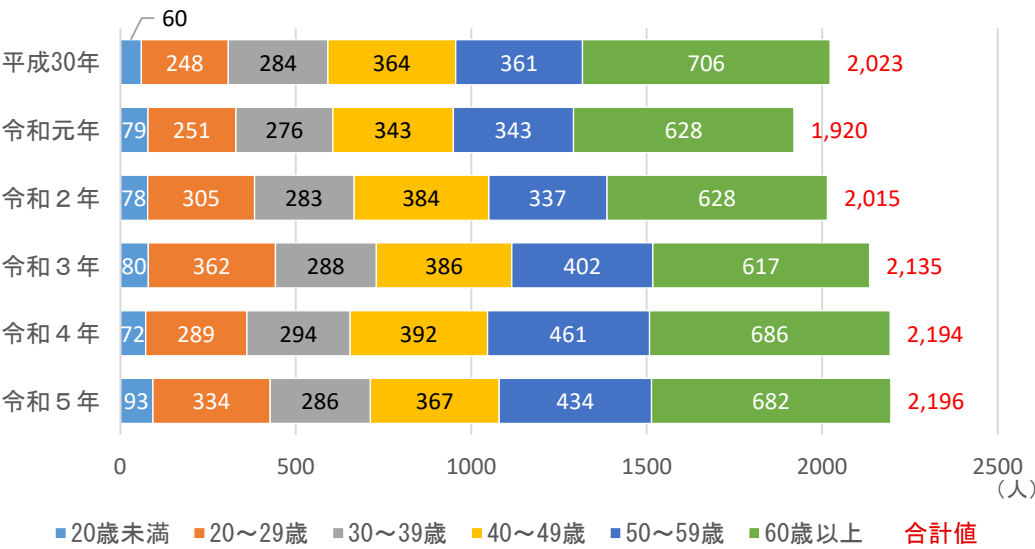
(2) 年齢別・女性



| 年齢    | 女性    |
|-------|-------|
| 20歳未満 | 99    |
| 20歳代  | 850   |
| 30歳代  | 194   |
| 40歳代  | 88    |
| 50歳代  | 49    |
| 60歳以上 | 11    |
| 不明    | 1     |
| 合 計   | 1,292 |

第6 年齢別自殺者数の推移

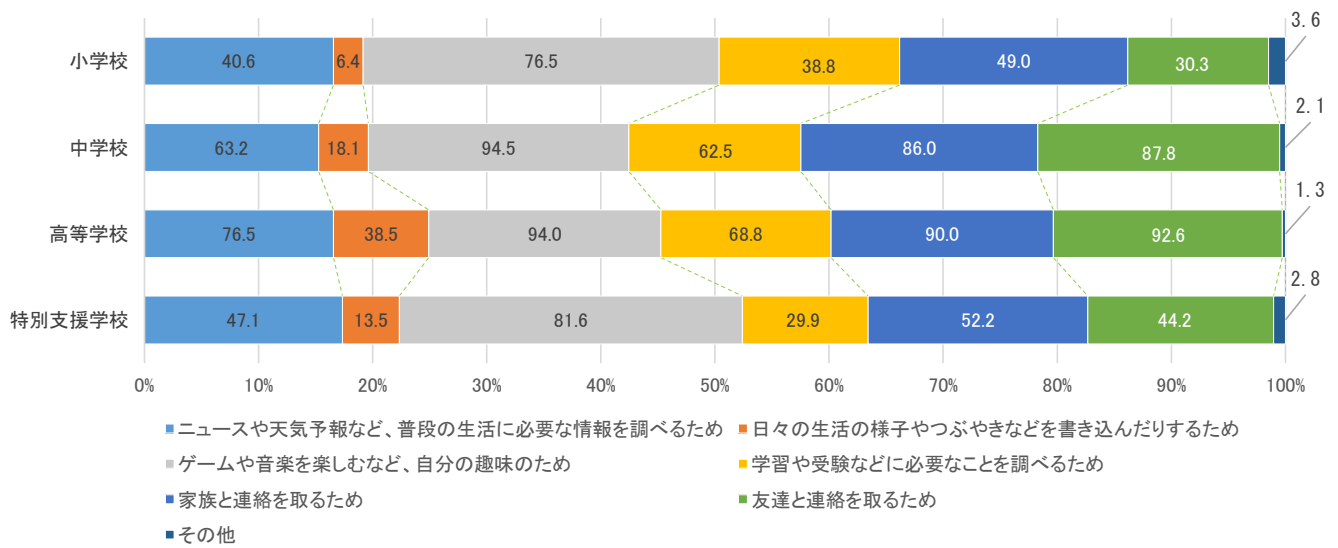
東京都の自殺者数は、平成23年の2,919人をピークに減少傾向にあったが、令和2年以降は増加に転じている。



資料：厚生労働省「人口動態統計」より作成

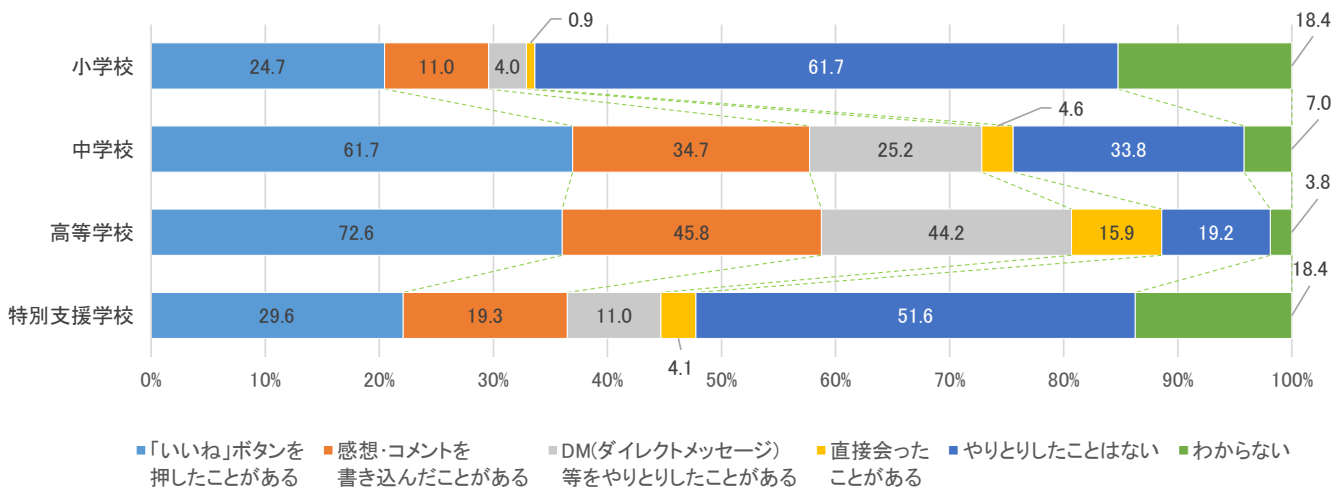
## 第7 児童・生徒のインターネット等の利用状況

### 1 インターネットの利用目的（複数回答可）



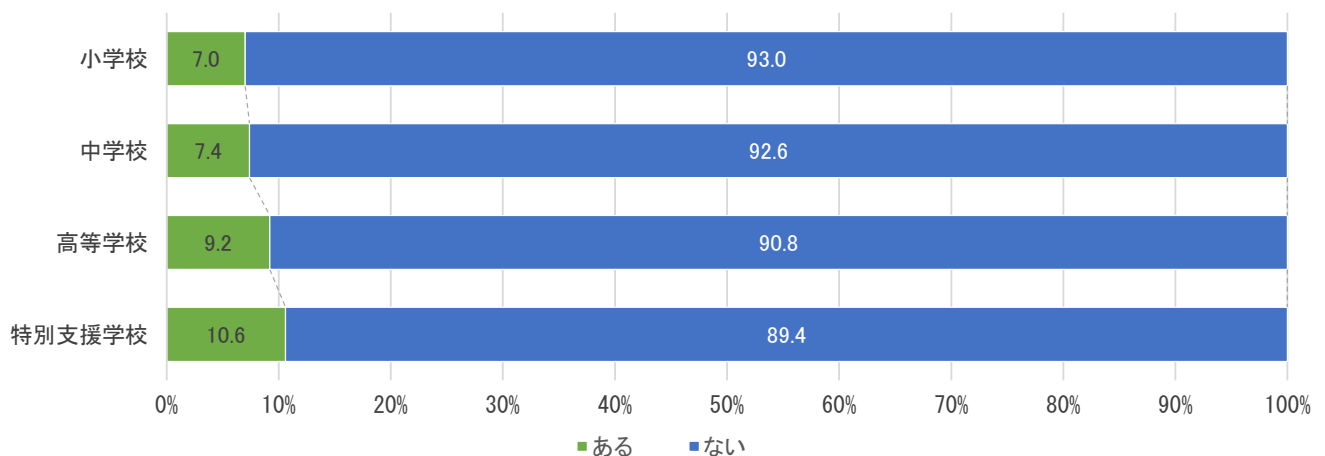
### 2 インターネットでの知らない人とのやりとり

直接会ったことがある高校生が一定割合存在



### 3 インターネット利用時のトラブルや嫌な思いの経験の有無

5年間で大きく変化なし



|        |           |
|--------|-----------|
| 小学校    | n = 7,069 |
| 中学校    | n = 2,395 |
| 高等学校   | n = 1,508 |
| 特別支援学校 | n = 690   |

資料：教育庁「児童・生徒のインターネット利用状況調査」（令和5年度）の調査報告書より